

第1章 はじめに

はじめに

建学の基本理念

科学と芸術を軸に世界平和と地域に貢献する国際的な大学

広島市立大学が建学の基本理念として掲げる「科学と芸術を軸に世界平和と地域に貢献する国際的な大学」という言葉には、科学・文化の発展と世界平和を希求する広島市の意志と、公立大学としての地域貢献への期待が込められています。

そうした本学の使命は、学術の中心として、深く専門の学芸を教授研究し、次代を担う感性と創造力の豊かな人材を養成するとともに、優れた教育研究の成果を地域に還元し、もって文化の向上と社会の発展に寄与することにあります。

国際平和文化都市を都市像とする広島市に設置された本学は、国際学部、情報科学部、芸術学部の3学部、そして大学院として、国際学研究科、情報科学研究科、芸術学研究科、平和学研究科を有する総合大学です。

また、世界平和と人類の幸福を実現するための研究や提言を行うことを目的として、広島平和研究所を設置しています。

広島市立大学は、特色ある教育研究活動を通じて、世界と地域が求める時代の要請に応え、本学が目標とする「国際平和文化都市の『知』の拠点—地域と共生し、市民の誇りとなる大学—」を築き上げていきます。

人材育成の目標

広島市立大学は、豊かな感性と真理探究への情熱を持ち、多様な文化と価値観を尊び、平和を希求する人材、さらに、幅広い知識と確かな専門性を有し、高い倫理観を持って広く社会に貢献できる人材を育成することを目標としています。



本学の組織と沿革

広島市立大学は、広島市の都市像である「国際平和文化都市」にふさわしい高等教育研究機関の創設を目指し、「科学と芸術を軸に世界平和と地域に貢献する国際的な大学」を建学の基本理念として、1994年4月に国際学部、情報科学部、芸術学部の3学部構成で開学しました。

その後、各学部における学術研究の高度化を図るとともに、国際的かつ先端的な専門教育を行うため、各学部に基礎を置く国際学、情報科学、芸術学の3研究科からなる博士前期・後期課程を設置したほか、被爆都市「ヒロシマ」の使命として、核兵器の廃絶と世界恒久平和の実現に向けた学術研究とその成果の発信・提言を目的とする広島平和研究所を開設しました。

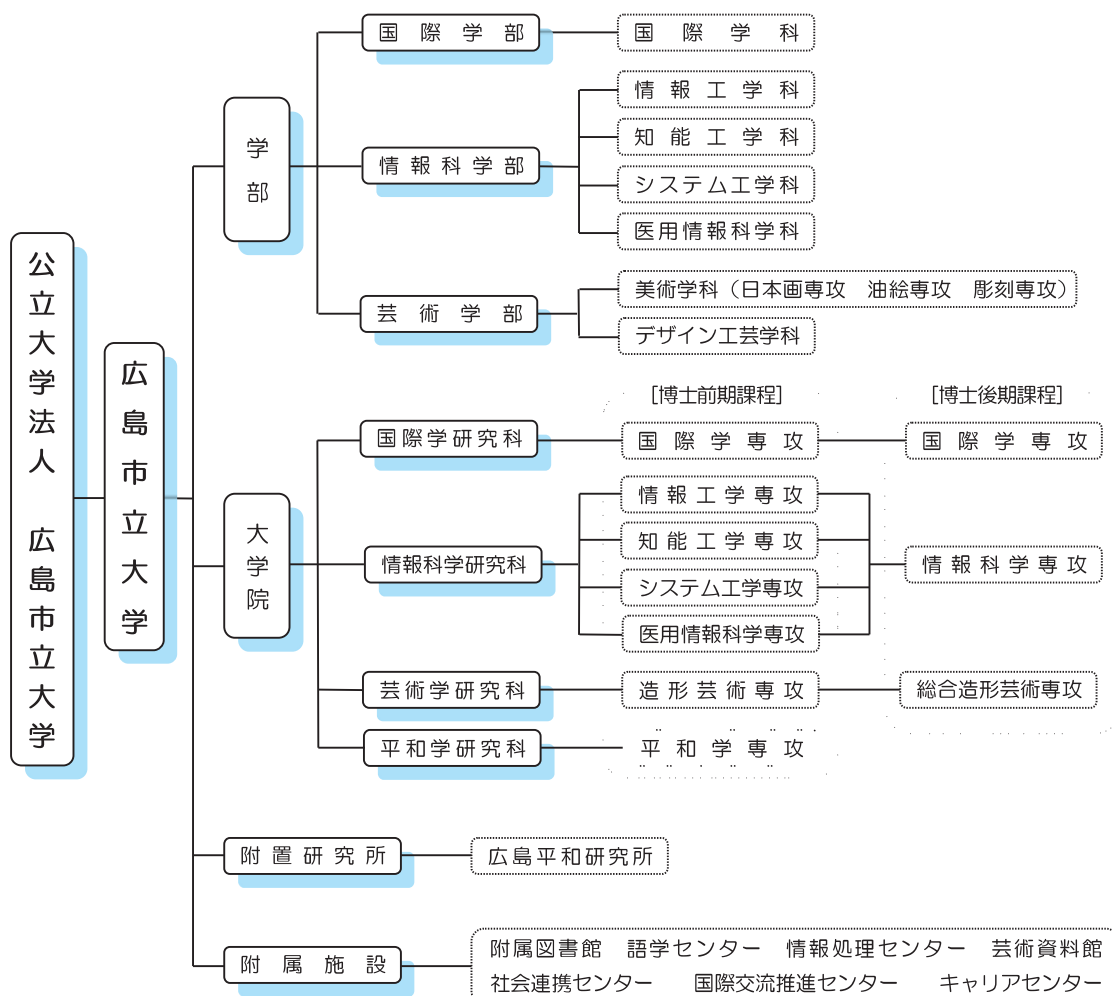
また、教育研究機能と地域貢献機能のさらなる強化を図るため、2010年4月に公立大学法人広島市立大学として新たな歴史を刻み始めました。

2015年には、文部科学省の「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」の実施校に選定され、大学、地方自治体、経済団体・企業などと協働し、「地域に愛着・誇りを持ち、地域に根付いて、その発展に貢献する人材」の育成を進めています。

そして、2019年4月には、平和主義の原点に立ち、広島から平和創造に貢献する人材を養成するため、大学院に平和学研究科を開設しました。

「国際平和文化都市の『知』の拠点一地域と共生し、市民の誇りとなる大学—」を目指す本学は、地域社会の要請に的確に応え、都市像にふさわしい国際性、創造性と高い倫理観を持って広く社会に貢献できる人材を育成することを使命とし、「国際、情報、芸術、平和」をキーワードに特色ある教育研究活動を行っています。

組織図



入学定員等

学部

学部学科専攻の名称	修業年限	入学定員	収容定員
	年	人	人
国際学部			
国際学科	4	100	400
情報科学部			
情報工学科	4	60	240
知能工学科	4	60	240
システム工学科	4	60	240
医用情報科学科	4	30	120
芸術学部			
美術学科	4	40	160
(日本画専攻)		(10)	(40)
(油絵専攻)		(20)	(80)
(彫刻専攻)		(10)	(40)
デザイン工芸学科	4	40	160
計		390	1,560

大学院

研究科・専攻名	修業年限		入学定員		収容定員	
	前期課程 (修士課程)	後期課程	前期課程 (修士課程)	後期課程	前期課程 (修士課程)	後期課程
	年	年	人	人	人	人
国際学研究科						
国際学専攻	2	3	15	7	30	21
情報科学研究科						
情報工学専攻	2	—	23	—	46	—
知能工学専攻	2	—	23	—	46	—
システム工学専攻	2	—	23	—	46	—
医用情報科学専攻	2	—	15	—	30	—
情報科学専攻	—	3	—	28	—	84
計			84	28	168	84
芸術学研究科						
造形芸術専攻	2	—	30	—	60	—
総合造形芸術専攻	—	3	—	6	—	18
計			30	6	60	18
平和学研究科						
平和学専攻	2	—	10	—	20	—
合計			139	41	278	123

※平和学研究科は修士課程のみ

1989年	11月	広島市立大学（仮称）設立準備委員会の設置
1991年	7月	「広島市立大学（仮称）基本構想」策定
1993年	12月	文部省設置認可
1994年	4月	開学
1998年	4月	大学院博士前期課程を開設 広島平和研究所を設置
2000年	4月	大学院博士後期課程を開設
2003年	4月	情報科学部「情報数理学科」、大学院情報科学研究科博士前期課程「情報数理学専攻」を、それぞれ「情報メディア工学科」、「情報メディア工学専攻」に名称変更
2007年	4月	情報科学部を「情報メディア工学科」、「情報工学科」、「情報情報システム工学科」、「情報機械システム工学科」の4学科から「情報工学科」、「知能工学科」、「システム工学科」の3学科に再編（2007年度入学生より） 大学院情報科学研究科博士前期課程を「情報メディア工学専攻」、「情報工学専攻」、「情報情報システム工学専攻」、「情報機械システム工学専攻」から「情報工学専攻」、「知能工学専攻」、「システム工学専攻」、「創造科学専攻」に再編（2007年度入学生より）
2007年	7月	社会連携センターを設置
2010年	4月	「公立大学法人広島市立大学」設立
2012年	4月	情報科学部に「医用情報科学科」を新設
2013年	4月	大学院芸術学研究科博士前期課程を「絵画専攻」「彫刻専攻」「造形計画専攻」から「造形芸術専攻」に再編（2013年度入学生より） 国際交流推進センターを設置
2013年	10月	サテライトキャンパスを開設
2014年	4月	キャリアセンターを設置
2016年	4月	大学院情報科学研究科博士前期課程「創造科学専攻」を「医用情報科学専攻」に名称変更（2016年度入学生より）
2018年	4月	国際学生寮「さくら」を開寮
2019年	4月	大学院平和学研究科（修士課程）を開設

校章・コミュニケーションマーク



○ 校 章

広島市立大学の3学部の変遷と無限の学問探究をテーマに、国際学部（International Studies）、情報科学部（Information Sciences）、芸術学部（Arts）、それぞれの頭文字 I・I・A を組合せ「果てしなき上昇」「未来への飛翔」をイメージし、また、広島の戦国武将である毛利元就の「三本の矢の教え」にも通ずるデザインとしました。

○ コミュニケーションマーク

本学のタグラインである「3つのひかり 未来をつくる」からイメージを展開し、磁力に引き寄せられるように集まり、互いに刺激し合い、そして解き放たれる3つの光。固定観念にとらわれず、多角的な見地から可能性を模索していく3学部を表した図像となるデザインとしました。

校章とコミュニケーションマークの使い分けについては、大学ウェブサイト「学内限定情報」に掲載のデザインマニュアルを参照してください。また、大学行事のチラシやパンフレットなど、大学として公式に作成する印刷物等に使用する場合は、作成前に企画室企画グループ（kikaku@m.hiroshima-cu.ac.jp）まで必ず連絡してください。

広島市立大学学歌

～旅立ちの詩～

作詞／小川 英晴 作曲／若尾 裕

えい えんの と あるひ きみ は う まれた おおくの ひとに しゆく
で あった とともに み

ふく されて きみはそだった りそうと ゆう きと せい
ち び かれて きみはまなんだ しんりと しん ぼと せい

い を むねに きみはたびだつ なす べき ことは むす
ぎ を むねに かな える ゆめは

うにあるが なし えたものは まだ なにもない もと めれば ひとすじの ひか
ゆく べきみちは まだ わからな い

りはさして あら たな みちが みえてくる ともよ たった いちど
ゆうきが わいてく る

の せいしゅんを せかいにむけて とき はなと う ともよ あいと へいわ

を わすれぬために ふか い いのりを ささげよ う とも

よ いま この とき きみの た びだちの とき

- I
- 永遠のときある日 きみは生まれた
多くの人に祝福されて きみは育った
理想と勇氣と誠意を胸に
きみは旅立つ
なすべきことは無数にあるが
なしたものはまだなにもない
求めればひとすじの光は射して
あらたな道が見えてくる
- 友よ たった一度の青春を
世界に向けてとき放とう
友よ 愛と平和を忘れぬために
ふかい祈りを捧げよう
友よいまこのとき
きみの旅立ちのとき
- II
- 永遠のときある日 きみは出逢った
多くの友に導かれて きみは学んだ
真理と進歩と正義を胸に
きみは旅立つ
叶える夢は無数にあるが
行くべき道はまだわからない
求めればひとすじの光は射して
あらたな勇氣が湧いてくる
- 友よ たった一度の青春を
世界に向けてとき放とう
友よ 愛と平和を忘れぬために
ふかい祈りを捧げよう
友よいまこのとき
きみの旅立ちのとき

